

説明できる自律化インタラクションAIの研究開発と 育児・発達支援への応用

背景・狙い

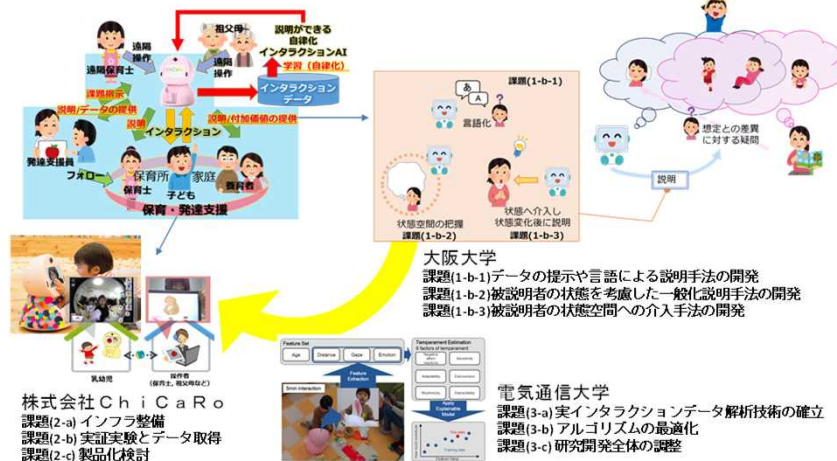
- ・ 孤立育児や育児・発達支援の人手不足が大きな社会問題
- ・ with/postコロナ時代の保育スタイル（システム）を実現する
- ・ そのためのロボットシステムに必要なAI技術を研究開発し実装する
⇒遠隔操作から自律化するロボットの技術と自律ロボットが説明する技術

キーワード 遠隔育児支援ロボット、自律化AI、自律ロボットの説明性

取組み内容

- ・ インタラクションを自律化させるA Iを開発
- ・ 自律化インタラクションA Iの説明性を実現

社会課題の解決へ
・ 孤立育児や育児
・ 発達支援の人手不足

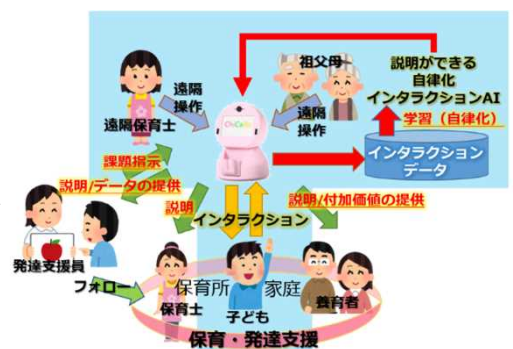


これからのwith/postコロナ時代保育スタイル（システム）

AIが保育による自然な観察を説明し発達支援員がフォロー**保育士や家庭が一体**となって子育てする仕組みへ

想定されるアプリケーション

- ・ 本研究成果は遠隔保育ロボットChiCaRoに実装し発達/育児支援サービスとして事業化
- ・ **with/postコロナ社会の国内生産や雇用への効果**：女性の社会進出、潜在保育士問題（リモートワーク促進）、遠隔発達支援
- ・ **国民の利便性への効果**：共働きの支援、発達障害の早期発見・対策



遠隔育児支援ロボットChiCaRoによる
保育施設向けおよび
一般家庭向けの発達/育児支援サービス

研究開発テーマ名：「説明できる自律化インタラクションAIの研究開発と育児・発達支援への応用」

委託先・再委託先：国立大学法人大阪大学、国立大学法人電気通信大学、株式会社ChiCaRo

主要研究者：長井隆行（阪大）、阿部香澄（電通大）、奥温子（株ChiCaRo）

WEBサイト：<http://www.rlg.sys.es.osaka-u.ac.jp/>

